

# 編集後記

沖縄の暑くて長い夏も終わりに近づき、朝夕は涼しさが感じられます。道を歩いていると小さな空き地のそこかしこにススキが目立ちます。私の子供のころ（昭和40年頃）は那覇市内でも大きな空き地がたくさんあり、何にも無かった所が秋になると急にススキでいっぱいになったのを思い出します。

今年は4月に大きな診療報酬改定がありました。10月からはリハビリの日数制限が現実問題になり、診療報酬改定の影響が広がり始めました。この状況はマスコミなどでも大きく取り上げられ大規模な署名運動につながり社会問題にもなっています。今後の動向が注目される所です。

表紙は収穫時期のリンゴ園の写真です。木全体にリンゴがびっしりと実っています。沖縄では果実は緑がいっぱいある中に実るのがあたりまえです。緑が少なく丸いリンゴでいっぱいの林檎の木を初めて見た時、奇妙な感動があったのを覚えています。

医師会報にはいろいろなコーナーがありますが、その中で月間週間行事紹介コーナーが思いがけず充実してきました。今月は「医療安全推進週間に因んで」「性の健康週間に寄せて」ということで紹介文が寄せられています。先に思いがけずと書いたのには理由があります。広報委員会でこのコーナーを立ち上げた当時は1～2ページの簡単な紹介コーナーを想定しておりました。確かに初めのうちは紹介のページも少なかつたと思います。ある号で数ページにわたる紹介文が掲載されてから、一気に盛り上がってきました。それぞれの先生方にとっても、もともと思い入れのある行事なのでしょうからいったん火がつけば紹介に力が入り賑やかになる

のは当然なのかもしれません。今では論文形式に近い紹介文もあり、さらには参考文献まで添えているものまであり力作ぞろいになっています。寄稿していただいた先生方に感謝の念がたえません。

理事報告コーナーはじっくり読むと、なるほどと思わせる内容が盛りだくさんです。特に、宮城会長による都道府県医師会長協議会報告は、現在の医師会活動を知る上で大切な内容を含んでいます。ぜひ読まれることをお勧めします。地区医師会長会議では「中部地区医師会立ぐしかわ看護専門学校」の学債について話し合いが持たれています。

医療に関する県民との懇談会では、介護保険を中心に懇談が行われました。老人医療・老人介護はこれからどうなっていくのでしょうか。心配になります。

生涯教育・プライマリ・ケアの両コーナーを、私は「知っているつもりがくっきりとわかる」コーナーと思っています。日常診療に役立てて下さい。

若手コーナーは、「なるほど」「そうだよなー」「考えさせられるよなー」などつぶやきながら読んでいます。ぜひご一読ください。

随筆コーナーは面白い作品が寄せられています。子供の頃興味があったことに、大人になってからお金をかけるのは楽しいでしょうね。飛行機の模型を前にして笑顔の江洲先生、うらやましいですね。「愛の医療が地球を救う」大きなテーマです。稲福先生、大変面白く読ませていただきました。

今月号ももりだくさんの内容です。寄稿・投稿ご協力をいただきました先生方に深く感謝申し上げます。

広報委員 池村 剛